

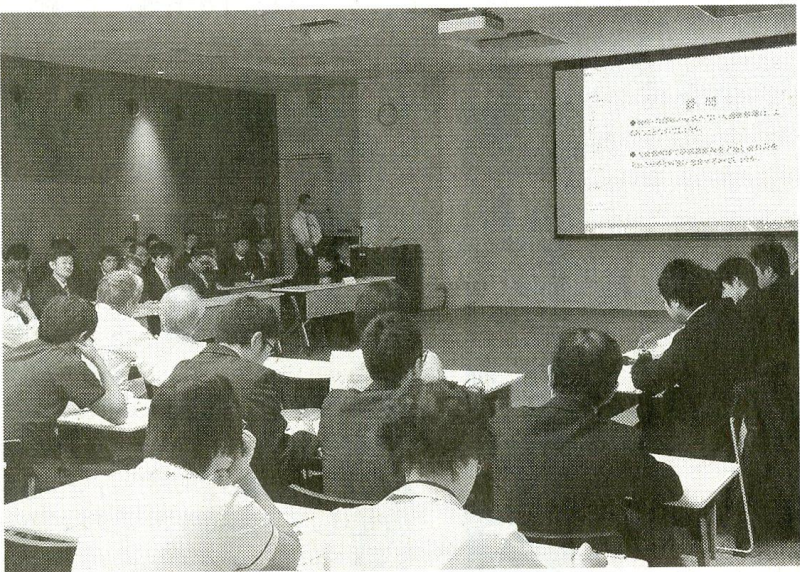
低血糖早期判断を

救急救命士処置拡大で対応確認

製鉄記念室蘭病院

製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）の救急症例検討会が、室蘭市知利別町の同病院で開かれた。「救急救命士が実施可能な新たな処置拡大2行為」をテーマに、西胆振の救急救命士・救急隊員と医療スタッフが救命率向上を目指した対応・処置の在り方について意見交換した。（松岡秀宜）

厚生労働省は、救急救命士「疑われる患者への血糖測定」の業務に①低血糖が一定と、低血糖患者へのブ



救急救命士の処置拡大などについて意見交換した検討会

ドウ糖溶液の投与②心肺機能停止前の静脈路（静脈内への薬液投与経路）の確保と点滴投与の実施の二つを追加。これにより、救急救命士の救命処置範囲が拡大した格好だ。

同病院では年2回ほど、同病院まで救急搬送された症例などについて、救急隊員らと情報共有を図る検討会を開催。

今回は、西胆振の救急救命士や救急隊員らに、同病院の医師や看護師ら計70人が参加した。

糖尿病の治療中、低血糖状態が重篤化すると、意識障害などに陥り、大変危険な状態となる。ただ、低血糖時にブドウ糖を投与すれば、劇的に回復するため、早期の発見とブドウ糖投与が重要という。

同病院ICU・救急室

の愛澤真裕看護課長は「処置拡大に伴う手技等の留意点」を解説。意識障害がある患者の対応として、体温、脈拍、血圧、呼吸数の生命兆候が安定しているか不安定な状態なのかの見極めと、著しい冷や汗やショック状態の有無を確認する必要性などを指摘。

ブドウ糖投与後に意識が回復した時は突然目覚めるため、患者のそばを離れず、複数人で確認することなどの注意点を紹介した。症例検討では、参加した救急隊員から「子宮がんで入院加療後の水頭症について」「重症度・緊急度の高い胸痛」の2例が報告。医師らとの意見交換を通じて、一刻を争う事態での対応や連携などについてあらためて確認していた。